

文人として生きる――

浦上玉堂と春琴・秋琴 父子の芸術

Life as *Bunjin*: the art world of Urakami Gyokudô and his sons, Shunkin and Shûkin

会期 11月10日(木)-12月18日(日) [前期:11月10日(木)-12月4日(日)/後期:12月6日(火)-12月18日(日)]

開館時間 10:00-18:00(金・土曜日は20時まで) *入場受付は閉館の30分前まで

休館日 11月21日(月)、11月28日(月)、12月5日(月)

観覧料 一般1,200円(960円) 大学生700円(560円)

※小・中・高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※()内は前売り、団体20名以上、および千葉市内にお住まいの65歳以上の方の料金

※前売券は、千葉市美術館ミュージアムショップ(10月30日まで)、ローソンチケット、セブン-イレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(12月18日まで)にて販売

■リピーター割引

本展チケット(有料)半券のご提示で、会期中2回目以降の観覧料を割引いたします(一般800円、大学生500円)

主催:千葉市美術館

展覧会概要

日本文人画壇の巨星 浦上玉堂(1745-1820)は、岡山の鴨方藩のエリート武士でしたが、50歳のときに脱藩、安定した生活を捨て自由を手にし、七絃琴と画筆を携えて諸国を遍歴します。このとき同行した(1779-1846)は16歳、次男秋琴(1785-1871)は10歳でした。

春琴はやがて関西画壇きっての人気画家となり、玉堂も晩年は京都で春琴と同居しました。秋琴は11歳から会津藩に仕え、雅楽方頭取に任じられるなど、音楽面での活動が目立ちます。父子はそれぞれに異なる活動に勤しみますが、みな文人としての誇りを高く保ち続けて生涯を送りました。

2006年の浦上玉堂展から10年が経過し、注目すべき作品も新たに発見されています。また今回は、これまで十分な紹介がされてこなかった春琴にも大きなスポットを当てる画期的な試みで、玉堂父子の全国にまたがる足跡を追いながら、珠玉の作品群を一覧するかつてない規模の展覧会となります。

国宝・重要文化財をはじめとし、新出、初公開作品も多数含む270点から構成いたします。

※会期中大幅な展示替え、頁替えがあります。

※国宝 浦上玉堂《東雲節雪図》展示期間 11月22日(火)-11月27日(日)

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代) <http://www.ccma-net.jp>

みどころ

玉堂、10年ぶりの大規模展

2006年に岡山県立美術館と当館で開催された「浦上玉堂展」が、この度パワーアップ！玉堂のみならず、その子春琴・秋琴の画業、足跡までをたどる展覧会を開催します。もちろん玉堂の代表作は欠かさずに、この10年の間に発見された初紹介の作品を多数出品、これまでに類を見ない規模の玉堂展となります。

大幅な展示替えを行うなか、出品点数は約270点。そのうち、玉堂作は151点、春琴作75点、秋琴作22点が展示されます。

空前絶後の春琴特集

現在では父玉堂の名が知られている浦上家ですが、当時は春琴が父をはるかにしのぐ、京都画壇きっての人気画家でした。幼少時から才能溢れる書画にふけり、父の脱藩によりますます「文人」としての才能を伸ばした春琴の画風は、父とは真逆の洗練された気品あるもの。写生に基づく山水・花鳥を描き、人気を博しました。

本展はこれまであまり紹介されてこなかった春琴にスポットを当てる空前絶後の春琴展でもあります。なぜ当時の春琴人気が現代まで続かなかったのか、なぜ近代に入ってから玉堂人気が起こったのか…近世から近代にわたる鑑賞者の「眼」の変化もお楽しみください。

三者三様の浦上家

玉堂をはじめ、浦上家の父子はいずれも文人として生きることに誇りを持ちながら、それぞれの特性を生かした活動を行っていました。玉堂は琴を愛し、酒を愛し、自由を愛した真の文人。自己の表現活動を重要視し、生涯でも山水画のみを描き続けました。春琴は多才で真面目。しかし絵に全力を傾け、文人となるために一生懸命でした。秋琴は音楽一筋ながら、晩年素直な作品を描いた人でした。本展を通して、三者三様の文人としての生き方をご覧ください。

国宝も重要文化財も

国宝《東雲節雪図》(11/22～27 限定展示)のほか、重要文化財11点、重要美術品4点が出品。大幅な展示替えがありますので、2回目以降の鑑賞にお得なりピーター割引をご用意しました。ぜひご利用ください。

玉堂を見出した収集家・画家の眼

玉堂の作品は近代になって見出され、価値を高められたと言っても過言ではありません。本展の最終章では珠玉の作品を、玉堂を愛した人々の「眼」と結びつけてご紹介します。

主な玉堂作品所蔵者：大原孫三郎、木村定三、川端康成、梅原龍三郎、東山魁夷、ピーター・ドラッカー



浦上玉堂『煙霞帖』のうち「青山紅林図」
梅澤記念館(重要文化財)



浦上春琴『蔬果蟲魚帖』天保5年(1834)
泉屋博古館



浦上玉堂・秋琴『山水画帖』より
浦上秋琴『山水図』寛政8年(1796)

同時開催

所蔵作品展「父子の芸術ものがたり—所蔵江戸時代の美術より」

*「浦上玉堂と春琴・秋琴 父子の芸術」展をご観覧の方は無料

関連企画

オープニングトーク・講演会 「浦上玉堂、春琴・秋琴 父子の芸術」

講師：守安収(岡山県立美術館館長)
11月12日(土) 14:00～
11階講堂にて／先着150名／聴講無料
※当日12:00より11階にて整理券配布

講演会・映像上映とトークセッション

「川端康成と浦上玉堂、そして国宝《東雲節雪図》」(事前申込制)
吉増剛造映像作品gozoCine「浦上玉堂の魂の手ノ血が点々と」上映
講師：川端香男里(川端康成記念会理事長、ロシア文学者、東京大学名誉教授)
吉増剛造(詩人、文化功労者、日本芸術員会員)
11月27日(日) 14:00～
11階講堂にて／定員150名／聴講無料
※申込締切 11月16日(水)必着

七絃琴コンサート 「玉堂-その琴-の世界に誘う」

演奏：坂田進一(琴士、作編曲家、東西古典音楽研究家)
定員：130名／聴講無料
12月3日(土) 14:00～
11階講堂にて／先着130名／観覧無料
※当日12:00より11階にて整理券配布

ワークショップ 「玉堂に倣う一模写で知る浦上玉堂の魅力」(事前申込制)

当館が所蔵する浦上玉堂の渴筆・擦筆技法による山水画を原寸大で模写し、その魅力に迫ります。
講師：山下和也(日本画、東洋絵画修復、東洋絵画古典技法研究)
11月26日(土) 14:00～
11階講堂にて／定員20名／対象 中学生以上／参加費400円
※申込締切 11月16日(水)必着

ワークショップ 「ことば×おと×かたち」(事前申込制)

言葉からメロディを作って、音を奏でてみよう。音の形を、筆で描いてみよう。話すように奏で、奏でるように描く。ことば、おと、かたちを自由に行き来するワークショップです。
講師：粟津裕介(音楽家)
12月10日(土) 13:30-16:00
11階講堂にて／定員20名／対象 小学3年生以上／参加費300円
※申込締切 11月30日(水)必着

次回展予告

「プラティスラヴァ世界絵本原画展—絵本の50年これまでとこれから—」

2017年1月4日(水)-2月26日(日)

【申込方法】

左記のイベントについては、往復はがきまたはホームページからお申し込みください。往復はがきの場合は、郵便番号・住所・電話番号・氏名・希望のイベント名・参加人数(2名まで)を明記の上、〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係 までお申し込みください。
※お申し込みは1つのイベントにつき1通、応募多数の場合は抽選。
※ワークショップ参加希望の方は、年齢・当日連絡可能な連絡先を明記してください。

ギャラリートーク

担当学芸員による：11月16日(水) 14:00～

ボランティアスタッフによる：会期中の毎週水曜日(11月16日を除く)
※水曜日以外の平日の14:00にも開催することがあります。
※混雑時は中止する場合があります。

市民美術講座

「日本文人画と玉堂」講師：河合正朝(当館館長)
11月19日(土) 14:00～／11階講堂にて／先着150名／聴講無料
「浦上春琴の魅力と玉堂」講師：松尾知子(当館学芸係長)
12月11日(日) 14:00～／11階講堂にて／先着150名／聴講無料

【会期中の催し】

さや堂ナイトプログラム

12月17日(土)／18:00～／美術館1階さや堂ホールにて／有料
ネオ・ルネサンス様式の空間で、usagingenのライブシネマパフォーマンス公演を行います。

素敵なフード、ワークショップなど、お楽しみがいっぱいのナイトパーティー。夜の美術館もあわせてお楽しみください(詳細は当館ホームページにてご確認ください)。

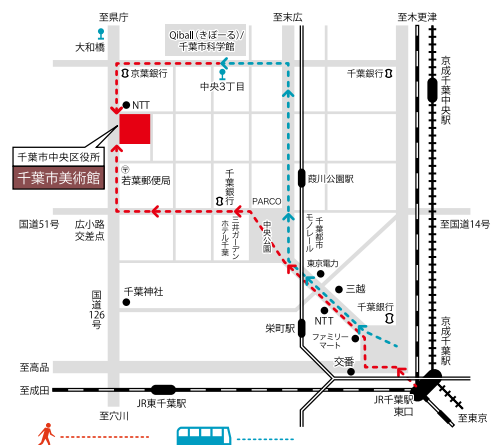
usagingen：平井伸一・絵美によるアーティストデュオ。2008年結成、ベルリンを拠点に活動後、2016年から豊島(香川県)に拠点を移す。自作の映像機と楽器を使い、リアルタイムで作りに上げられる映像と音楽の世界感を表現。

<http://usagingen.com>

交通案内

- ◎ JR 千葉駅東口より
- ・徒歩約15分
- ・バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分
- ・千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩約5分
- ◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
- ◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く
- ◎千葉市中央区役所と同じ建物です
- ◎地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください

ミロコマチコ『オレときいろ』金のりんご賞
©ミロコマチコ



展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

文人として生きる——

浦上玉堂と春琴・秋琴 父子の芸術

Life as *Bunjin*: the art world of Urakami Gyokudô and his sons, Shunkin and Shûkin



1. 国宝 浦上玉堂《東雲節雪図》
川端康成記念館（展示期間11/22～11/27）



2. 浦上玉堂《一晴一雨図》個人蔵(重要文化財)



3. 浦上春琴《名花鳥蟲図》文政4年(1821)
岡山県立美術館



4. 浦上玉堂・秋琴《山水画帖》より 個人蔵



5. 浦上玉堂『煙霞帖』のうち「青山紅林図」
梅澤記念館(重要文化財)



6. 浦上玉堂・秋琴《山水画帖》より
浦上秋琴《山水図》寛政8年(1796)

文人として生きるー 浦上玉堂と春琴・秋琴 父子の芸術
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 行
FAX: 043-221-2316

| | |
|------------------|---|
| 貴社名： | 媒体名： |
| ご担当者名： | 発行予定日： |
| TEL： | 発行部数： |
| FAX： | 定価： |
| Email： | 掲載予定コーナー名等： |
| 画像到着希望日： 月 日 時まで | 画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ： |

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 国宝 浦上玉堂《東雲篩雪図》川端康成記念館 (展示期間：11/22～11/27)
2. 浦上玉堂《一晴一雨図》個人蔵(重要文化財)
3. 浦上春琴《名花鳥蟲図》文政 4 年(1821) 岡山県立美術館
4. 浦上玉堂・秋琴《山水画帖》より 個人蔵
5. 浦上玉堂『煙霞帖』のうち「青山紅林図」梅澤記念館(重要文化財)
6. 浦上玉堂・秋琴《山水画帖》より 浦上秋琴《山水図》寛政8年(1796)

■ プレゼント用招待券申込
(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5 組 10 名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先
ご住所：〒

問い合わせ先
千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8
Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)
Fax. 043-221-2316
HP. <http://www.ccma-net.jp/>

広報担当：磯野 愛